

西神門 第28代 横綱に

紙相撲新聞

第164回本場所
十日目～千秋楽号

編集・発行
日本紙相撲協会

千秋楽、越境山を下して堂々の連続優勝 場所後の理事会で満場一致で横綱に推挙

【第百六十四回本場所十日目～千秋楽】
第164回本場所千秋楽が4月19日に開催され、西神門が1敗を守って3度目の優勝を飾った。

九日目を終えた時点で、大関西神門と平幕の越境山が1敗で優勝争いの先頭に立ち、これを星2つ差で3敗勢が追う展開となったが、千秋楽に西神門と越境山の直接対決が組まれたため、優勝はこの両者に絞られた。



- ↑ 千秋楽、西神門は2敗で追う平幕越境山を下して堂々の連続優勝。7勝どまりの横綱陣を尻目に安定した強さを発揮した。
- ↓ 十日目、西神門は関脇鬼ヶ嶽と対戦。大関復帰に向けて負けられない鬼ヶ嶽だったが、西神門の寄りに屈した。



越境山●(押し倒し)○春ノ翔

迎えた十日目、西神門は関脇鬼ヶ嶽と、越境山は横綱春ノ翔と対戦。まず土俵に上がったのは西神門と鬼ヶ嶽。鬼ヶ嶽も既に3敗を喫しており、大関復帰にはこれ以上負けられないと気合がはいっている。しかし相撲は西神門が勢いそのまま正面土俵に寄り切った。初めての横綱との対戦、ましてや越境山の一番とあって、越境山は緊張の極致。春ノ翔の速攻に為すべしなく土俵を割った。

優勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞	十両	幕下	三段目	序二段	序の口
西神門	該当なし	越境山	該当なし	大石丸	松錦	笹熊	森倉	平田
十勝一敗 (3)	八勝三敗 (初)			十勝一敗 (初)	五勝 (初)	五勝 (初)	五勝 (初)	五勝 (初)

そして、迎えた千秋楽。星一つの差がついて西神門にとっては連敗しない限り優勝という有利な状況だが紙相撲は何が起ころうかわからない。

両者の取り組みは息が合わずなかなか立ち上がらない。嫌な雰囲気漂う中で一番となったが、組んでしまえば西神門。力の差を見せつけ、先場所に続いての優勝を果たした。(暫)

大関西神門 横綱に推挙

大関西神門が先場所に引き続き連続優勝を飾ったことを受けて、千秋楽の打ち出し後に理事会が招集された。

冒頭、朝日松理事長より「現在、横綱が4人いるが、大関西神門が2場所連続優勝したこと横綱に推挙したい」というのが疑義はあるか?との発言があった。

横綱昇進の条件は「大関で2場所連続優勝するか、若しくはそれに準ずる成績をあげた場合」となっており、西神門はこの条件を満足する成績をあげたことになる。

ただ現在、先々場所に大関が横綱に昇進し、協会史上初の4横綱という番付となっており、いくつ2場所連続優勝といっても、これ以上横綱を増やすのはいかがなものかという声も聞こえてくる。

える一方、いずれ先達は引退するだろうから推挙すべきとの声も。

出席理事の意見に注目が集まったが、全員から「異議なし」との声上がり、満場一致で大関西神門の横綱への推挙が決まった。

錦風親方は「2場所連続優勝もさることながら、強さといいい相撲内容といい、すでに横綱に相応しい品格を備えており、横綱推挙に異論なし」と力強く語った。(錦風)

西神門談「横綱千代関の援護射撃を胸に横綱にはたっぴり稽古をつけてもらいました。恩返しが出来て良かったと同時に責任重大と認識し更に精進致します。」

十両も春日根が連続制覇、大石丸が優勝

十両でも優勝を果たしたのは、幕内の大関西神門に続き春日根部屋の大石丸。左右からの多彩な相撲内容で10勝1敗の好成績をあげ、先場所西筆頭で8勝の好成績を上げたが、番付運悪く入幕出来なかった鬱憤を晴らして優勝を手土産に来場所はいよいよ入幕となった。

九日目を終えて1敗で大石丸、鳥海波の二人が先頭に立ち、2敗で千丈岳、日向藤が追う展開で迎えた十日目。先に土俵に上がった鳥海波は伊勢旭と対戦し、立ち会いからのど輪で押し込みかけたが、そののど輪を交わされ、低い体勢で左を見せたが寄り切られ2敗目を喫した。



伊勢旭○(寄り切り)●鳥海波



場所後の理事会で満場一致で推挙